鹿児島県県民の森に対する来訪者の意識について

鹿児島大学農学部　中島　容子・鮎川　広幸
今永　正明

1. はじめに

鹿児島県県民の森は，昭和59年5月27日より一般に公開された。この森に対する来訪者の意識について調査したので報告する。

さて，本県民の森は，郷土の自然の保育，県内林業の振興啓蒙，県民の森林レクリエーションの場の提供を目的に，全国植樹祭の記念事業として造成されたものである。

2. 研究の場所と方法

県民の森は鹿児島市（人口50万人）より北へ約40㎞，姶良郡の姶良町，加治木町，溝辺町の三町にまたがり，面積は約1,000haで鹿児島県本土のほぼ中心に位置している。

森林はスギやヒノキの人工林が面積の約7割を占め，広葉樹林が3割弱となっている。その他にクロマツの優占するマツ林，竹林が若干ある。広葉樹林はスダジイ，アラカシを主とした群落で，谷間ではタブ，コジイ，ハナガガシ，シラカシ，イチイガシなどが見られる。

主要施設は，森林学習展示館，植物見本園，各種展示林，展望所，モデル緑地，スーパースライダー，中央広場，キャンプ場などで，道路は車道10.3㎞，管理道4.0㎞，遊歩道16.1㎞となっている。交通手段は定期バスがないので自家用車や貸切バスなどである。

本調査はアンケートにより実施され，昭和59年6月に2回，7，8，9月に各1回，10月に2回の計7回土，日曜日を主体に行われた。その結果，526人から回答を得た。アンケートの内容は，県民の森の利用状況，利用しての印象，森林の取扱いに関する意見などを中心にした16項目である。ここではその主要なものについて述べる。

3. 結果と考察

1）回答者の層

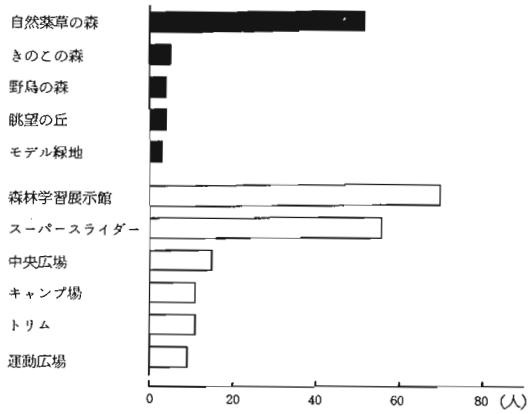
回答者の性別比は男性53.7％，女性46.3％である。年齢をみると，10代 8％，20代 26％，30代 35％，40代 14％，50代 10％，60歳以上 7％となっている。職業は，学生・生徒 11％，農林業 3％，商業 2％，会社員 25％，公務員 18％，教員 3％，主婦 62％，その他 12％である。来訪者は県内からが98.1％と大部分で，そのうち鹿児島市から来た人が約半数を占める。

2）来訪の目的

来訪の目的は自然観察 39％，ドライブ 16％，ただ何となく 16％，キャンプ 6％，登山・ハイキング 4％，スポーツ 4％，一目見ようと思って 3％，その他 12％となっている。

3）県民の森の魅力

県民の森で最もよい印象を受けた場所を図－1に示す。来訪者は森林学習展示館やスーパースライダーなど自然観察以外の人工的色彩の強い場所（図で白く描かれたもの）に魅力を感じる人が，自然的色彩の強い場所（図で黒く描かれたもの）よりかなり多いことがわかる。

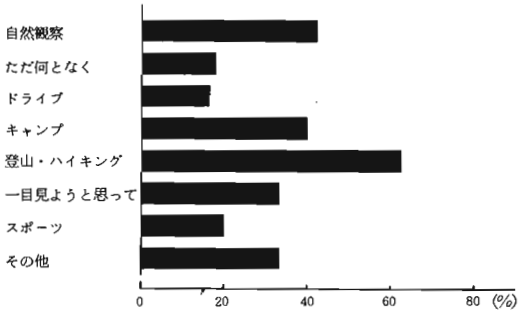


図－1　県民の森で最もよい印象を受けた場所

Youko NAKASHIMA, Hiroyuki AYUKAWA and Masaaki IMANAGA (Fac. of Agric., Kagoshima Univ., Kagoshima 890)
Visitor's opinion on the Kenmin-no-Mori recreational forest in Kagoshima

4) 遊歩道の利用

遊歩道は森林浴や自然観察，探勝には欠かせないものである。しかし，その利用をみると歩いた人は全体の32%にすぎない。そこで来訪の目的別に遊歩道を歩いた人の割合を図－2に示すと，自然観察，キャンプ，登山・ハイキングの目的で来た人が多く歩いていることがわかる。



図－2 来訪目的別の遊歩道を歩いた人の割合

5) 再訪の希望

またこの場所に来たいですかの質問に対して92%の人が来たいと答えているが，是非もう一度来たいという積極的な人は47%であった。年代別に再訪の意志の程度を示したのが表－1である。30代以上では是非来てみたいと希望の強い人が多いが，10代，20代の若い層は機会があればと消極的な人が多い。

表－1 年代別再訪の意志の程度

年齢＼意志の程度	ぜひもう一度	機会があれば	わからない	特に来たいとは思わない
10代	21.9(%)	63.4(%)	9.8(%)	4.9(%)
20〃	31.4	62.8	3.6	2.2
30〃	54.3	37.5	4.9	3.3
40〃	64.4	30.1	4.1	1.4
50〃	60.0	38.0	—	2.0
60歳以上	47.2	38.9	11.1	2.8

6) 森林の取扱いについて

「県民の森の森林を美しく維持するために人手を加えるべきか」という質問に対する回答は，人手を加えるべきである 24%，一部加えるべきである 51%，加えるべきではない 16%，わからない 9%であった。また「県民の森から林業経営のために木を伐り出すことについてどう考えるか」という質問に対しては，全く伐ってはいけない 24%，景観を損なわない程度ならよい 53%，景観を高めるならよい 9%，しかたがないと思う 7%，よい 1%，わからない 6%となっている。特に10代の場合，前の質問に対して，人手を加えるべきでない，わからないと答えた人が61%，また後の質問についても全く伐ってはいけない，またはわからない人がこれも61%占めている。

7) 山形県県民の森との比較

山形県県民の森で開園直後に行った調査結果[1]と比較したのが表－2である。なお山形市の人口は22万人，県民の森までの距離は13㎞である。両県民の森は南北にかなり離れ立地条件も異なるが，両者の結果を比較するとかなり似ていることがわかる。

表－2 県民の森調査結果の鹿児島県と山形県との比較

回答	鹿児島県	山形県
来訪の目的		
自然観察	39.0(%)	28.2(%)
ドライブ	16.3	24.9
遊歩道を歩いた人	31.6	38.4
最もよい印象を受けた場所		
自然的色彩の強い場所	29.1	30.7
人工的色彩の強い場所	70.9	69.3
森林の取扱いについて		
人手を加えることに肯定的	74.8	65.7
木を伐り出すことに 〃	70.1	65.4
再訪の希望あり	91.9	94.2

4. おわりに

本県民の森の来訪目的としては自然観察が多いが，最もよい印象を受けた場所は自然的な場所でなく人工的色彩の強いところであった。また遊歩道の利用はわずかであった。こうした傾向は山形県県民の森での調査結果と似ている。しかし本県民の森への再訪の希望は多いので，今後より自然との接触を密にするような県民の森の管理運営が望まれる。

引用文献

(1) 今永正明，手塚武弘：日林東北支誌，34，73～74，1982

(2) 日本林業技術協会：鹿児島県県民の森基本計画調査報告書，pp.159，1981